

### 成果検証報告書

#### 【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度 28年度

市町村名	蕨市					
提案事業名	ワクワクわらび！にぎわい創出プロジェクト推進事業					
事業期間	27年度 ~ 27年度					
成果指標	(成果を検証する指標) 中心市街地における休日の歩行者・自転車の通行量					
	(成果検証の具体的な方法) 平成24年度と平成28年度における中心市街地の休日の歩行者・自転車の通行量（調査地点9箇所の10時間合計）を比較する。					
	(成果の目標値に対する実績)			達成度	C	
	従前値 (24年11月時点)	41,980人	目標値 (28年11月時点)	42,897人	実績値 (28年11月時点)	40,969人
	(施設建設等の場合の実績)					
	年間利用者数 (人)	(目標) (実績)	稼働率 (%)	(目標) (実績)		
住民への公表状況 及び特記事項		ホームページ				

#### 【事業効果の整理・原因分析】

平成27年度 構成事業

構成事業名	事業効果	事業効果の概要及び原因分析
① 音楽によるまちづくり推進事業	○	音楽によるまちづくり懇談会より提出された提言書に基づき、「蕨市民音楽祭」、「音楽関連情報の発信」、「小・中学校への音楽家の派遣」、「子ども音楽大学わらび」の各事業を実施した。市民が音楽に触れあうことができる環境を提供することで、地域の活性化や芸術文化の振興につながり、まちなぎわい創出に寄与したと考えられる。
② 協働推進月間の創設	○	協働推進月間を実施するとともに、蕨市独自の協働のシンボルマーク及びキャッチフレーズを制定した。協働に対する理解を促進することで、市民と行政との協働によるにぎわいあるまちづくりにつながったと考えられる。
③ わらびりんごサイダー商品化事業	○	本市の重要な地域資源である「わらびりんご」を活用した「わらびりんごサイダー」の商品化を行い、平成27年度の機まつりで限定1,500本を販売し、完売となった。販売当日は長蛇の列ができる人気であり、まちなぎわい創出につながったと考えられる。
④ 中心市街地活性化事業	△	中心市街地活性化基本計画の冊子及びパンフレットを作成し、周知を図った。また、通行量調査により計画の進捗状況を把握するとともに、中心市街地活性化アドバイザーの助言により計画の着実な実施・推進を行った。平成27年度には計画掲載事業42事業中16事業（約38%）が実施されたが、中心市街地にあった大規模小売店が平成28年10月に閉店した影響で、中心市街地における休日の歩行者・自転車の通行量は目標値を下回った。
⑤ わらてまつり実施事業	○	蕨市協働事業提案制度により提案された「わらてまつり」を開催した。開催期間中は、ミニ新幹線試乗やNゲージの運転体験などの各種イベントが行われ、2日間の開催で延べ7,500人が訪れ、まちなぎわいの創出につながったと考えられる。

## 【成果検証の総括・改善策の検討】

実施事業について 十分に成果が認められた点	音楽によるまちづくり推進事業や、わらてつまつりでは多くの参加者があり、十分な成果が認められた。また、わらびりんごサイダーは、2日間の販売で用意した1,500本が完売した。
実施事業について 成果が不十分である点	中心市街地にあった大規模小売店が平成28年10月に閉店した影響で中心市街地における休日の歩行者・自転車の通行量は目標値は下回った。
成果検証を踏まえた 今後の改善策	まちのにぎわいを創出するためには、継続的な取り組みが必要であることから、引き続き市民との協働を推進し、各事業を着実に展開していく。

(記入上の注意)

## 【成果指標の達成状況】

・達成度(A・B・C)の判断基準は次のとおりとする。

「達成度A」 目標値に対する実績値の伸び率が80%以上の場合

$$\text{実績値} \geq (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 80\% + \text{従前値}$$

「達成度B」 目標値に対する実績値の伸び率が60%以上80%未満の場合

$$(\text{目標値} - \text{従前値}) \times 60\% + \text{従前値} \leq \text{実績値} < (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 80\% + \text{従前値}$$

「達成度C」 目標値に対する実績値の伸び率が60%未満の場合

$$\text{実績値} < (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 60\% + \text{従前値}$$

## 【事業効果の整理・原因分析】

・事業効果(O・△・×)の判断基準は次のとおりとする。

「事業効果O」 事業効果の発現が十分に認められる

「事業効果△」 事業効果の発現が多少認められるが、不十分な点がある

「事業効果×」 事業効果の発現がほとんど認められない